郷土かわらばん

流山市指定有形文化財

日本には多くの文化財があります。国が指定・登録している文化財だけでも、国宝、重要文化財を含め、総計で約三万件以上に及びます。そもそも、文化財とは何なのでしょうか。文化庁は、「文化財は、長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産です。」としています。また、文化財は、日本の文化財保護法により、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の六つに分類されます。

今号では、流山で市指定有形文化財第一号となった諏訪神社の社殿を取り上げます。市指定有形文化財とは、各市区町村の条例に基づき、市区町村にある形のある文化的所産（建造物、絵画、彫刻、古文書、考古資料など）のうち、その地域にとって歴史上・芸術上・学術上の価値が高いものとして指定された文化財のことを指します。

諏訪神社

流山市には、今年の七月三日に新たに指定されたものを含めて、三十五件の市指定有形文化財があります。その第一号となったのが駒木の南端、東武アーバンパークライン豊四季駅近くにある諏訪神社の社殿で、昭和五十五年（一九八〇）に指定されました。「駒木のおすわさま」として、古くから地域で親しまれてきました。

創建は大同二年（八〇七）。奈良時代、天武天皇の皇子・高市皇子（たけちのみこ）の末裔が争いを逃れて関東に下りました。風早（現松戸市）・名都借と住み移り、最後に駒木に定着したので、ここに氏神として信濃国（現長野県）の諏訪大社から神額をいただきお祀りしたのが始まりといわれます。

御祭神は健御名方富命（たけみなかたとみのみこと）。開拓と農耕、衣食住の神様、また、信濃の地を統一し外からの侵略に対応したことから、武神としても信仰されています。

諏訪神社

「チェック！流山のむかし」56ページより引用

森の図書館
X
@N_morinoto

発行
流山市立
森の図書館
指定管理者
株式会社
すばる

諏訪神社は全国でその総数約一万社といわれています。長野県の諏訪湖周辺に四つの境内を持つ諏訪大社が諏訪神社の総本社で、国内最古の神社のひとつです。

社殿

駒木の諏訪神社の社殿の建築様式は江戸時代に完成された本殿・幣殿、拝殿がつながる社殿形式・権現造りのものです。

寛延二年（一七四九）の火災で宝物などとともに焼失し、現在の社殿は江戸時代後期に再建されたものです。消失前の社殿には、水戸光圀公もお参りされていたそうです。

社殿の壁面・柱などは隙間無く多くの彫刻で飾られています。流山六丁目にある赤城神社本殿も同様の作りで、こちらも市指定有形文化財となっています。諏訪神社の彫刻は、明治のはじめに日本に訪れたイギリス人医師ウイリアム・アンダーソンの著書「日本美術全書」に、本殿の両側・背面の大羽目彫刻が写真図版を添えて紹介されています。彫刻の題材は中国の故事にまつわるものや、松竹梅、鶴亀といった吉祥の柄があります。本殿には、親孝行の物語の「養老の滝」や、夫婦愛や長寿を象徴する「高砂」などの彫刻があしらわれています。

本殿は文政九年（一八二六）、下総香取郡の大工文蔵と、当地八木村の大工染谷礒右衛門が建てたものです。

幣殿・拝殿は、約二十年後の弘化三年（一八四六）頃の建築で、成田山新勝寺釈迦堂（現釈迦堂国重要文化財）を建てた大工八木紋次郎が関わったとされています。また、大正十三年に、瓦葺きの拝殿は、銅板葺きに改められました。

外拝殿正面

「流山建物ア・ラ・カルト」65ページより引用

諏訪神社の境内には石碑や像がいくつも置かれています。また、子どもの成長や安産の神様として名高い姫宮神社、雷や雨、水を司る神様として信仰が篤い雷神社など、九つの摂末社の小さなお社もあります。

参考文献

・『駒木のおすわさま　諏訪神社御鎮座千二百年記念出版』諏訪神社社務所　２００６年

・『流山建物ア・ラ・カルト　流山市内建物調査集成　流山市立博物館調査研究報告書30』流山市立博物館／編　流山市立博物館　２０１５年

・『チェック！流山のむかし』流山市立博物館／編著　流山市教育委員会　２０１６年

・『東葛流山研究第34号　楽しい東葛寺社事典』流山市立博物館友の会／編　流山市立博物館友の会　２０１６年

・『東葛流山研究第37号　楽しい東葛建物事典』流山市立博物館友の会／編　流山市立博物館友の会　２０１９年

・『流山の史跡をあるく』田村哲三／著　図書出版みぎわ　２０２４年

いずれも流山市立図書館の所蔵資料です。

協力：流山市立博物館